

生駒山麓公園再整備による地域活性化のための基盤整備検討懇話会 第5回会議録

1. 日時

令和8（2025）年3月17日（火） 14：30～16：30

2. 場所

生駒市役所 3階会議室

3. 参加者

【有識者】5名

佐野修久氏、武田重昭氏、佐々木啓氏、高松俊氏、領家誠氏

【事務局】5名

米田建設部長、巽みどり公園課長、高橋みどり公園課課長補佐、関口みどり公園課主任

【欠席者】1名

船本淑恵氏

【傍聴者】

なし

4. 議事要旨

1) 開会

・事務局より開催挨拶

2) 案件

(1) 生駒山麓公園再整備による地域活性化のための基盤整備検討について

(2) その他

(1) 生駒山麓公園再整備による地域活性化のための基盤整備検討について

- 基本構想としては大変良くなったと感じる。そのうえでより良い基本構想になるよういくつか意見がある。

「資料2」の1ページ目では、タイトル部分の背景イラストはイメージを固定する恐れがあるので、パノラマ写真等に変更又はなくすほうが好ましい。公園概要の部分では供用面積はヘクタール単位のほうがよい。

2ページ目では、標高分布図の表記が最高点からマイナスに表現されていて気になることと、勾配図等も重要である。また、基本計画レベルで実施することだが、標高分布図や植生分布図を重ね合わせることで、より園内の自然環境の特徴が把握できると思われる。その特徴を、最終ページのゾーニング図とリンクさせることで、より意味のあ

るゾーニングができるのではないか。

3 ページ目では、上位関連計画等の整理の部分で、基本構想の内容だけを読んでも把握できるように、より詳細な説明を付け加えるべき。

4 ページ目では、グラフの数値は全て表示するべき。また、期待することについてパーセンテージ帯ごとの区分や順位付けがなされているが、誤解を招く恐れがあるため、箇条書きで羅列する程度の整理のほうがよい。

5 ページ目では、学校団体へのアンケートは文章による整理ではなく、箇条書きの方が適している。末尾の掲載写真も特段の意図がなければ不要だろう。

6 ページ目では、問題点のうち、施設の問題点に関して、「基本構想を基にした再整備」、「公共交通等も含めたエリア全体のアクセス改善」という表現は内容がイメージしにくいので改善すべき。また、問題点ではなく、課題という表現のほうが適しているのではないか。

7 ページ目では、方向性②「使い方」のうち、「新たな施設の導入や複数施設を連携させるプログラム等の提供」の位置づけについて整理が必要。周辺施設との連携という意味では、方向性③「関わり」のほうにも分類できる。同様に、方向性③「関わり」のうち、「さまざまな障がい者就労のかたちにより、働き方を選べる公園」は、方向性②「使い方」に分類することも可能だろう。方向性①②③はホップ・ステップ・ジャンプのような関係性であると思うので、よりそれに対応した整理を行うべき。戦略の「導入拠点の形成」は利用者目線的な表現になっており検討したほうがよい。加えて「自然体験の場の創出」についても、使い方に焦点を当てるのであれば、場ではなく体験を重視するほうがよい。インクルーシブな公園という表現は誤っており、本来はインクルーシブな社会にするために、当該公園が貢献できることを示す表現にするべきだろう。また、ブランドのシンボルという表現があるが、似た意味の言葉が2回重なるような印象がある。

8 ページの将来像についても、「シンボルパーク」という表現が少しひっかかる。基本方針の「交流とつながりが広がる自分らしく輝くステージ」については、戦略から考えると、機能・関わりを表現するような文言のほうがよいのではないか。基本方針「ウェルカムベース」の導入機能である「園内の自然を最大活用する」という内容について、この部分だけ役割という整理からは浮いた表現になっている。また、最下部におかれている「みんなで育て、続けていく」という部分は重要な部分であり、基本方針と同様のレベルで表現したほうがよい。

9 ページ目のゾーニングについては、はっきりした図になりすぎているため、もう少し線をぼやかして表現したほうがよいだろう。またイメージスケッチで、ビジターセンターという言葉が突然出てきておりわかりづらい。おそらくウェルカムベースとしての機能だと思うのでわかるようにしておくべき。

全体的な部分として、文字の強調表示の方式は、なにかしら統一性をもたせるべき。

- 自然環境調査（植生分布図）に関しては、今年度急遽差し込んだもので、まだ十分に把握できていない情報もある。今後、より一層の検討を要すると認識している。
- 7 ページ、8 ページのつながりが理解しにくい。本来、将来像があって戦略を設定するものだが、本構想ではそれが逆転しておりつながりが分かりにくい。また、重複する内容もあり、もう少し整理が必要だと考える。
- 市民の方が見やすい構想にしていくために、ご指摘の箇所は整理したい。
- 基本構想は、市民への説明に加えて、事業者に対する「営業資料」になるものだが、その対象者によって、適切な内容の構成や表現等は異なるので、それに応じた概要版を作成するなど、適宜使い分けて欲しい。

6 ページについては問題点ではなく、課題のほうがいいのではないか。
課題に関しては、利用者数はそもそも社会的な傾向（少子高齢化、人口減少等）が反映されたものであり、山麓公園そのものの質的な面を見るべきではないだろうか。
8 ページ目の機能と、9 ページ目のゾーニング図の関係性が希薄であり、ゾーニング図の位置づけ、役割が明確ではない。8 ページ目までに整理した今後の方向性に対応したゾーニング図であるとわかりやすい。
また、民間事業者目線では、投資できるのがGゾーンに限られるとミスリードされる恐れがあり、ゾーニング図ではなく、イメージスケッチをメインにするような構成もよいのではないか。

7、8 ページ目は見開きにするほうがわかりよい。言葉のレイヤーは、再整備戦略、将来像、ゾーン名で合わせるべき。
- 市民向け、事業者向けを明確に検討してきた訳ではないで、ご意見を受けてどのように構成を見直すか、検討したい。
- 基本構想としてはこのままでも構わないが、市民向け、事業者向けそれぞれに向けて、必要な箇所だけを抜粋した概要版を考えてみてはどうか。
- 上位関連計画の部分は、それぞれの計画での記載内容の意味が伝わるように、もう少し内容を加筆すべきだろう。

7 ページ目の方向性③「関わり」の部分で「働き方が選べる」という表現があるが、公園内だけでそこまで選択の自由度を高めることは難しいので、書き過ぎという印象がある。また、「インクルーシブな公園」に関する内容が、障がい者就労支援に偏った表現になっている。もっと利用者のインクルーシブといった視点も加え、この公園で実現しようとしているインクルーシブがどのようなものか、明確に示していくべきだ。
- 最も気になったのは、7、8 ページの内容に重複感があり、整理をおこなったほうがわかりやすくなる。将来像があってそれを実現する戦略という流れが一般的である。無理に戦略等の項目を用いるのではなく、一体的に整理してもよいのではないか。7 ページの方向性①、②等の見出し表現も再考の余地があり、役割は位置づけ、使い方は機能、といったふうにより適したものがあるのではないか。ゾーニングについても、将来像と

の結びつきを検討いただきたい。また、各委員から指摘のあった6ページの問題点という表現だが、これは内容ではなく章タイトルを「問題点と方向性」とするとポジティブな印象を与えるものになるので、表現を工夫するとよいのではないか。

全体を総括すると、4ページの上位計画・関連計画の表現、7、8ページ目の重複的内容の整理と、よりホップ・ステップ・ジャンプを意識した表現の検討、ゾーニング図の扱いなどが、委員から重複して提案された内容であったかと思う。

(2) その他

特になし

3) 閉会

・各委員より挨拶

- この公園におけるインクルーシブに関しては、格差是正等ではなく、平等利用などがインクルーシブなものであると思う。それを丁寧に整理し、積極的に打ち出すと、民間事業者の参画や公園の魅力向上を促進するものになるのではないか。
- 生駒山のブランド化については、観光部局と連携のもと、戦略を検討していただきたい。また、その先にはインバウンドの誘致ということも考えての取組だと思うが、インバウンドの流れが掴めれば、休日の概念が少なく、平日利用の拡大にもつながるので、ぜひ今後、検討いただきたい。
- 山麓公園は、自然の中で、幅広い年齢層の利用者が、さまざまなライフステージで活用される公園である。こうした良さを、今後の再整備・運営においても大切にしていきたい。
- 生駒山は、山の持つ魅力、立地の面から、ポテンシャルが大きい。その点では、山麓公園も同様である。もっと多く利用される公園をめざしていただきたい。また、ハイキング等の面からはスカイラインが分断要素になっているところもあるので、そうした課題解決も考えていきたい。
- 基本構想として、3つの大きな柱を立て、その実現をめざすものであるが、今後の計画づくりの中で丁寧に議論いただきたい。公民連携事業の実現のため、事業者意見が重要であるが、意見提出を通じ過度に事業者リスクの低減を試みることもあるので、見極めが重要である。

・事務局より挨拶